



前身は野村代表の父が1948年に創業した「野村木工所」で和室の襖の骨組製作を手掛けていた。1989年に「株式会社 フレックス」の工場を設立し、1996年「野村木工所」と合併。NC制御機械などの最新鋭高機能機械や作業負担を減らす投入・積取ロボットの導入等の上に、丁寧な手加工、職人技術加工で、首都圏のマンションや高級ホテルの建具・ドアの受注生産を行う。

“あたり前のことをあたり前に”実行

大館市には木製内製ドアの製作において関東圏のマンション・大型施設で高いシェアを誇る、株式会社フレックスという企業がある。

前身は野村幸三郎代表の父が創業した「野村木工所」。元々の生まれは東京だが、和室に必須の襖の骨組製作に使用する質の高い木材を求めて大館市で事業を始めた。

「全盛期は市内3ヶ所の拠点で、連日関東方面に出荷していましたが、時代とともに徐々に需要が減っていきました。反対にマンションブーム等で室内用ドア等の建具需要に対応するべく別会社として興したのが当社です」。

いずれの会社も完全受注生産。発注元の状況に業績が大きく左右されるが、取引先の期待を裏切らない品質と安定した供給力を続けた木工所時代の精神を、野村代表が受け継いだ。



誠実に、丁寧に、確実に。掲げる社是は「質至高」。

受注生産スタイルでは、提供される設計図があれば他社でも同じものが作れるかもしれない。しかし、1件1件の仕事に真摯に向き合い、現場施工までを考え抜いたきめ細やかな製作、納期を守る確実さ。難易度の高い注文にも“できない”とは言わず、知恵を出し合って乗り越える力。

「どれもあたり前のことを、あたり前にしてきただけ」と野村代表は謙遜するが、コツコツと積み上げてきた信頼は実を結び、フレックスは首都圏のマンションに納品する内製ドアの市場占有率上位に並び立つ企業へと成長した。

迎えた転換期をともに乗り越える

約25名の従業員とともに始まった同社も、現在では4倍まで増え、地元の雇用に大きく貢献。木工所時代、新人だった職人も今では社の中核を担い、若い職人たちを率いている。

「それでも苦しい時期は多々ありました。リーマンショックを境に一時期はマンション関係の売上が激減しました。それに長い目で捉えると住宅市場の規模縮小は避けられないので、高級ドア市場への参入を図っています」。

全国の企業が直面している事業承継の壁に野村代表も気づき、深く悩んだ。だが、何よりも多くの従業員の生活をもっと良いものにしていきたいという想いに変わりはなく、息子である匠さんが承継の意志を見せたことで、生き残りをかけた経営計画に尽力を注いでいる。

まずは、長年培った技術力と小回りが利く中小企業ならではの対応で中・高級向けのドアや建具へ参入。大手が真似できない



い複雑で難易度の高い案件に挑み、安全性が求められる介護施設やこども園、老舗高級ホテル、外資系の日本企業オフィス等の受注に繋げていった。

同時に、社内環境の改善にも力を注いだ。世間が持つ工場の“キツイ、汚い、危険”のイメージを払しょくするべく、働きやすい職場づくりをめざした。設備投資を積極的に行い、可能な限り機械化することで、従来数名で運んでいた重いドアもワンタッチで運搬。女性1人でも簡単に対応できるようになった。

一人ひとりのスキルアップで 目指すはフレックスブランドの確立

従業員のことを第一に考える野村代表は、外部からの知恵も積極的に取り入れる。4年前から社員教育に県内のコンサルを活用。生産改善委員会を立ち上げ、改善提案制度を導入した。また、改善活動の一環として、従業員全員で県外に赴き、大手自動車メーカーの工場見学を行った。

「改善提案制度については以前にも実施したことがありまし



た。けれど、制度と実態が伴わず、いつの間にか立ち消えてしまった。私も含めて、全員が成功している実例を肌で感じたことで、それぞれが自らの役割を考え実践することの重要性を学ぶ機会を生み出せたと思います」。

効果は目に見えて現れた。個々に、あるいはチームごとに、指示を出したわけでもないのに、従業員たちは時間を見つけては自ら改善提案に取り組み始めた。野村代表も現場から上がってきた意見には決して間を置かず、社としての意向を示すことで計画倒れにならないよう心がける。

「新人も、ベテランも、男性も女性も関係ない。会社を支えてくれる従業員が働きやすく、モチベーションが保てる環境を整えるのが経営者の役目。今度は、普段は見ることのない納品先の施工現場を全員で見に行きたいと思っています。一人ひとりのスキルアップを図りながら、『フレックス』の名がもっと広まり、皆が誇りに思えるような企業を目指していきたいですね」。

- 1 機械への投入・積取の自動化を進め、社員への負担軽減に取り組んでいる。
- 2 約1/3が女性従業員。働きやすい環境が整えられている。
- 3 「質至高」の精神が浸透する現場で妥協はない。
- 4 複雑な工程もお手の物。機械と技術の融合が質の高い製品を生み出す。



株式会社 フレックス

〒017-0005
秋田県大館市花岡町字前田40-28
TEL. 0186-46-2161
FAX. 0186-46-2170

創業 / 1948年
● 資本金 / 4,500万円 ● 従業員数 / 92名
● 営業品目 / 内装ドア、造作材他

代表取締役
野村 幸三郎
のむら こうさぶろう

